SPORTS LEGACY Report 2026

東京マラソン財団「スポーツレガシー事業」のご報告



スポーツの夢

強化育成

アスリートの強化、
ジュニアアスリート育成、キャリア支援



スポーツの礎

環境整備

スポーツ施設などの
環境整備

SPORTS LEGACY



スポーツの広がり

普及啓発

スポーツ大会の支援
および普及啓発



スポーツの力

社会貢献

スポーツイベントなどを
通した社会的課題解決への試み

Inclusion & Innovation

未来に遺すスポーツを、今つくる。

スポーツを起点として、21世紀の社会に、後世につながる「レガシー」を遺していきたい。
そんな想いから「スポーツレガシー事業」は始まりました。

人と人とがつながれることのかけがえのなさを誰もが実感している今、
スポーツが持つ力に対する期待や関心はこれまで以上に高まっています。

東京マラソン財団は、この事業を通して、すべての人がスポーツを軸とした
新しいライフスタイルを享受できる社会の実現と継承を目指します。

スポーツレガシー事業 公式ウェブサイト ▶ https://www.sportslegacy.jp

「スポーツレガシー事業」は、国連で採択された
SDGs（持続可能な開発目標）の
実現に取り組んでいます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

3 すべての人に健康と福祉を
4 質の高い教育をみんなに
8 働きがいも経済成長も
11 住み続けられるまちづくりを

ご支援ありがとうございます。
2026年度の「スポーツレガシー事業」の活動予定についてご報告します。

東京レガシーハーフマラソン2025チャリティおよび
東京マラソン2026チャリティにてスポーツレガシー事業へ
ご賛同いただいたみなさまからお預かりした
寄付金は **619件、113,791,000円** でした。
多大なるご支援、誠にありがとうございます。

お預かりした寄付金を分配・活用し、2026年度は下記プロジェクトを実施いたします。

2026年度実施予定プロジェクトについて

スポーツの夢 強化育成



- ダイヤモンドアスリートプログラム
  （公益財団法人日本陸上競技連盟）

スポーツの礎 環境整備



- グリーンマイレージプログラム

スポーツの広がり 普及啓発



- 障がい者スポーツ普及事業
  （公益社団法人東京都障害者スポーツ協会）
- パラ陸上チャレンジサポート（江戸川区）
- ランニングに関する研究・普及（ランニング学会）
- アスリートの健康問題解決
  （一般社団法人女性アスリート支援委員会）
- ミニ東京マラソン
- 一般社団法人日本実業団陸上競技連合
- 一般社団法人日本フェムテック協会
- 株式会社韋駄天クラブ

スポーツの力 社会貢献

SPORTS LEGACY たまご育てプロジェクト
INCUBATION PROJECT





- 東日本大震災被災地の育英事業
- たまご育てプロジェクト
- 能登半島地震支援

  令和６年能登半島地震災害被災地支援事業
  （東京マラソン2026チャリティでスポーツレガシー事業-3を
  ご選択された皆様からお預かりした27,661,000円は
  日本赤十字社を通し、送金済となります。）

他、新規プロジェクト（詳細は決まり次第別途公開）にて活用させていただきます。

スポーツの夢
強化育成

アスリートの強化、ジュニアアスリート育成、キャリア支援

ダイヤモンドアスリート（第12期） 6名 認定

第12期 ダイヤモンドアスリート



6名

ダイヤモンドアスリートNextage



2名

写真：日本陸連／フォート・キシモト

■第12期ダイヤモンドアスリート



写真：日本陸連／フォート・キシモト

国際的な活躍を目指す次世代選手を育成する「ダイヤモンドアスリート」第12期に、新規3名・継続3名の計6名、また、「ダイヤモンドアスリートNextage」として2名が選出されました。ダイヤモンドアスリートNextageは実際のダイヤモンドアスリートプログラムの一部を経験し、ダイヤモンドアスリートになるための準備をすすめます。認定された選手たちの今後の活躍に是非ご期待ください。

第12期ダイヤモンドアスリート

- 澤田 結弥　SAWADA Yuya　ルイジアナ州立大学　女子中・長距離
- 永原 颯磨　NAGAHARA Soma　順天堂大学　男子3000m障害物
- 中谷 彪聖　NAKATANI Kaisei　東海大学　男子走高跳
- 濱 椋太郎　HAMA Ryotaro　法政大学　男子短距離
- 古賀 ジェレミー　KOGA Jeremy　東京高等学校　男子110mハードル
- ドルーリー 朱里　DRURY Sherry　岡山陸協　女子中距離

第12期ダイヤモンドアスリート Nextage

- 松下碩斗　MATSUSHITA Sekito　静岡高等学校　男子短距離
- 後藤大樹　GOTO Taiju　洛南高等学校　男子短距離 ハードル

※認定式当時の所属情報です。

ダイヤモンドアスリートとは

オリンピックや国際大会での活躍が大いに期待できる次世代の競技者を強化・育成する「ダイヤモンドアスリート」制度は、東京オリンピックを契機に中・長期的にエリートを育成することを目的として選ばれた競技者のための制度です。陸上競技を通じて競技面での成果はもちろん、豊かな人間性を持つ国際人として成長し、今後の日本および国際社会の発展に寄与できる人材の育成を目指しています。個を重視したアスリート育成のためにプログラムを整備し、アスリートの成長と競技力の向上を多面的にサポートします。また、アスリートを指導するコーチの育成も不可欠であるため、ハイパフォーマンスコーチの養成と連動したプログラムも展開しています。

■リーダーシップ研修会



写真：日本陸連／フォート・キシモト

2025年度のリーダーシップ研修会では、世界を舞台に活躍するアスリートから、海外大会でのリアルな経験や競技を続ける上で大切にしている考え方について話を伺いました。また、社会貢献については、「子どもたちが参加できる陸上教室を開きたい」「世界各地で競技を知ってもらえる場を作りたい」など、自身が支えられてきた経験を次世代へ還元したいという想いも共有され、競技だけでなく社会との関わりについて考える機会となりました。

■アスリートの健康問題解決のためのプログラム

リーフレット「アスリートの健康を守ろう！」を全国の競技会や研修会等で配布し、アスリートの健康課題への理解を深める啓発活動を実施しました。また、ウェルビーイングをテーマとしたイベントや指導者向け研修会を開催し、約200名が参加するなど、アスリートだけでなく指導者や一般参加者に向けても、健康について学び、考える機会づくりに取り組みました。

■寄付者を招待しました！

寄付者交流会



写真：日本陸連／フォート・キシモト

第12期ダイヤモンドアスリート認定選手との交流の場を設けました。「家族で陸上ファンなので、このような選手と直接交流できる機会に参加でき、嬉しく思います」「自分も走ることが好きなので、とても良い刺激になりました。引き続き、選手を応援していきます。」と参加者の皆さまに好評をいただけました。
参考：https://www.sportslegacy.jp/news/5090

セイコーゴールデングランプリ陸上2025東京



本大会へ寄付者の方をご招待。世界を見据えた素晴らしいパフォーマンスを間近で観戦することができ、中でも修了生の栁田選手と北口選手が見事優勝を果たしました。競技終了後には現役生・修了生との交流の機会を設けていただき、試合の感想や今後の目標を直接聞くことができる貴重な時間となりました。
参考：https://www.sportslegacy.jp/news/4824

スポーツの広がり 普及啓発

スポーツ大会の支援および普及啓発

教室参加人数 約600名
（2025年度開催延べ人数）

■ミニ東京マラソン





『ミニ東京マラソン』は、子どもたちにランニングやスポーツへの関心を高めてもらうために、東京マラソンのコンセプト「走る喜び（ランナー）、支える誇り（ボランティア＆審判＆スタッフ）、応援する楽しみ（応援者）」に沿って、東京マラソンを疑似体験してもらう特別授業です。走ることが得意な生徒・児童がよりマラソンを好きになってもらうのはもちろん、走ることに苦手意識がある子どもたちには、スポーツは、実施する人（マラソンの場合はランナー）以外にも“支える”、“応援する”等の多様な楽しみ方があることを認識してもらうことができました。2025年度は計6回、小中学校にて開催しました。

■パラ陸上チャレンジサポート

東京レガシーハーフマラソン2025と同日開催の「第4回パラ陸上教室 in 国立競技場」では、経験豊富な専門の講師陣の指導のもと、3種類の教室に分かれ陸上競技に挑戦しました。参加者からは、「レーサーで走れることは少ないので楽しかった。もっと速く走れるようになりたい」といった声が寄せられたほか、保護者からも「楽しそうに走る姿を見ることができて嬉しい」と好評をいただきました。
また、「EDORIKUパラ陸上教室」は6回教室を実施いたしました。昨年に引き続き多くの方にご参加いただきました。継続的な開催を通じて、参加者同士や保護者同士のつながりも生まれ、競技を楽しむだけでなく、交流や情報交換の場としても親しまれています。



第4回パラ陸上教室in国立競技場（10月19日）



「EDORIKUパラ陸上教室」（2025年度6回開催）

■東京2025デフリンピック

100周年の節目であり、日本初開催の本大会は、77か国・地域等から2,943名の選手が参加 しました。大会を機に、多くの方がデフスポーツやろう者文化に触れるとともに、大会会 場等では国際手話通訳や透明ディスプレイの活用等により、円滑なコミュニケーションを 実現しました。大会開催が、共生社会実現に向けた大きな一歩となりました。

■一般社団法人日本フェムテック協会

女性の健康課題への理解促進とウェルビーイング向上を目的に、2025年度はセミナー配信やスポーツウェルネス事業を実施しました。中でも、東京レガシーハーフマラソン2025にあわせて、女性の健康とランニングをテーマとしたセミナーや測定体験を開催し、多くの参加者が自身の身体や健康について学ぶ機会となりました。また、「フェムRUN部」では、無理なく健康的に続けられるランニングをテーマにイベントを開催し、継続的な運動習慣づくりにつながりました。

■株式会社韋駄天クラブ



「笑顔と元気を届けよう！」プロジェクトとして、スポーツ文化に触れる機会が少ない地域に向けたランニングイベントを実施しました。2025年度は、東京都檜原村・奥多摩町にて、瀬古利彦氏やオリンピアンによるトークや実践を通じて、走ること・歩くことの楽しさを伝え、地域交流や健康づくりにつながる機会となりました。

その他、各種事業の詳細はこちらをご覧ください ▶ https://www.sportslegacy.jp/projects

スポーツの礎
環境整備

グリーンマイレージプログラム

グリーンマイレージ **5,375マイル**

グリーンマイレージ　総額 **537,500円**

■3つのランニングイベントで実施！

ランニングを楽しむ場を守るためにも、走ることで自然を守る運動ができないか？ そんな想いから、グリーンマイレージプログラムは生まれました。1マイル（約1.6km）を走るごとに100円が緑の保全活動などに寄付されます。

・TOKYOナイトリレー&1マイル in 国立競技場
開催日：2025年10月17日
マイレージ数：合計5,100マイル
寄付金額：510,000円
寄付先：認定NPO法人環境リレーションズ研究所

・みんなのラン&健康ウォーキングフェスタin木場公園＜2025_Winter＞
開催日：2025年12月13日
マイレージ数：合計94マイル
寄付金額：9,400円
寄付先：公益財団法人東京都公園協会　東京都都市緑化基金

・みんなのラン&健康ウォーキングフェスタin木場公園＜2025_Summer＞
開催日：2025年7月6日
マイレージ数：合計181マイル
寄付金額：18,100円
寄付先：公益財団法人東京都公園協会　東京都都市緑化基金



スポーツの力
社会貢献

スポーツイベント等を通した社会的課題解決への試み

東日本大震災被災地の育英事業 **9,743,000円**

能登半島地震災害義援金 **25,399,000円**

■東日本大震災被災地の育英事業（岩手県・宮城県・福島県）

困難に直面している被災地の若者や子どもたちが勇気・希望、そして夢を与える力を持つサポートをするため、東京マラソン2025チャリティスポーツレガシー事業-2「東日本大震災被災地の育英事業」へ集まった寄付金9,743,000円を、いわての学び希望基金、東日本大震災みやぎこども育英募金、東日本大震災ふくしまこども寄附金に分配・送金しました。

■たまご育てプロジェクト

2年目となる特定非営利活動法人歌舞人では、全国の学校体育館や公民館などを訪問し、子どもから大人までが楽しめる舞台芸術作品を提供しました。新規4団体も、がん経験者の交流支援、障がいの有無を問わないマラソン大会や車いすランニング、ボッチャの普及といった多様なスポーツ・福祉活動を支援しました。2026年度は新たに2団体を採択し、継続5団体とあわせた計7団体の活動を支援していきます。

■令和6年能登半島地震災害義援金

東京マラソン2026チャリティでスポーツレガシー事業-3「令和6年度能登半島災害被災地支援事業」へ集まった寄付金を2024年1月1日に発生した令和6年度能登半島地震の災害義援金として、日本赤十字社を通じて被災地の義援金配分委員会に送金されます。スポーツレガシー事業-3のチャリティランナーのアスリートビブスには「#能登のために」と追記し、ランナーの皆さまに着用いただきました。

2026年度も東京レガシーハーフマラソン2026チャリティ、
東京マラソン2027チャリティを通した
寄付金及びチャリティランナー募集をはじめ、
様々な形でスポーツレガシー事業を支援することができます。

今後とも、スポーツレガシー事業のご支援・ご協力を
賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

詳しくは下記ウェブサイトをご確認ください。

＜東京レガシーハーフマラソン2026チャリティ＞
https://www.sportslegacy.jp/tlhcharity

＜東京マラソン2027チャリティ＞
https://www.sportslegacy.jp/tokyo-marathon-charity

スポーツレガシー事業運営委員会からのご挨拶



東京マラソン財団理事長

早野 忠昭 Tadaaki Hayano

東京マラソン財団チャリティで集まった人々の想いを基盤としながら、
「みんなの手で創り出し、つないでいくレガシー」というコンセプトを掲げ、
「スポーツが後世に遺すもの」つまりスポーツの「レガシー」の創造と継承を
東京マラソン財団のミッションとして取り組んでいきます。
東京マラソンらしく、革新的でありながら誰もが参加できるよう、
“Innovation & Inclusion”を掲げ、新たな広がりを目指していきたいと思います。
私たちのライフスタイルが豊かで幸せなものになったと実感できるように、
ぜひスポーツレガシー事業を応援してください。

寄付のお申込みは、公式ウェブサイトで受け付けています！

皆さまからのご寄付は、新しい世代の育成やスポーツイベントを通じた社会課題解決など、
スポーツが持つ力を未来へつなぐ活動に活用されています。
スポーツを通じた豊かな社会の実現に向け、引き続きご支援をよろしくお願いいたします。

詳しくは
こちらから ▶

https://www.sportslegacy.jp/donation

寄付や事業についての詳細・お問い合わせはこちらから

SPORTS LEGACY

スポーツレガシー事業公式ウェブサイト
https://www.sportslegacy.jp

RUN with HEART

CHARITY TOKYO MARATHON

TOKYO LEGACY HALF

発行：一般財団法人東京マラソン財団
2026年7月
https://tokyo42195.org/

TOKYO MARATHON FOUNDATION